

SIT Band - 札幌国際情報高校吹奏楽部



私が思う、 北区の魅力・好きな場所

高校に入って初めて北区に足を踏み入れました。最初に感じたのは自然がたくさんあること。そして、人が温かいと感じること。何度も演奏を見に来てくれたり、気軽に声をかけてくれたり、そういう温かい反応が練習のモチベーションにもなっています。(川岡義睦さん)

SIT Band - 札幌国際情報高校吹奏楽部

Hokkaido Sapporo Intercultural and Technological high school
の頭文字をとってSIT Band。部員150名ほどの大所帯で活動中。

SIT Bandの運動会主催は部員である生徒たち。監督である先生はいるものの、練習スケジュールや公演の選曲、会場手配などすべてが生徒の手で行われます。「ダンス担当、ステージマネージャー、総務など15の係があつて、それぞれ部員たちで考え、協力し合って練習内容や活動を組み立てています」と話すのは、キャプテンの川岡義睦さん。

熱気を帯びた練習風景からも、部員が互いに話し合い、それぞれ責任を持つ部に携わっていることが伝わってきます。「独りで何かをしようとするのではなく、みんなで助け合って一つの物事を成功させていくことが大事なんだ、キャプテンにならなくて、観客とともに楽しむことを一番の目的にして活

動するSIT Band。聴く人を飽きさせないように考えながら、毎回のステージを練り上げていきます。「観客に合わせた選曲だけではなく、演奏前にお客さんに声掛けたりして、できるだけリラックスして聴いていただけるように工夫もしています」。



観客の前で演奏できない苦しさも味わったコロナ禍。イベントも増え、今は生演奏を聴いてもらえる喜びを再確認しているそう



観客と演奏者がひとつになつて

踊る！ 歌う！ 楽しむ！

ダンプレでたくさんの笑顔をつくりたい。

社会貢献活動にも多数かかわり、2019年からUNHCR（国連難民高等弁務官事務所）のチャリティーにも参加。2022年は、ウクライナの民謡を盛り込んだプログラムで例年にない多くの支援金を集めました。演奏会の予定などは部活の公式HPに掲載しています。

ダンプレとは、ダンスをしながら演奏をする吹奏楽のパフォーマンス。その誕生地は北海道であり、札幌国際情報高校の吹奏楽部で現在監督を務める小出學先生が生みの親であります。同部も2013年からこのプレイスタイルを取り入れて活動し始めました。

ステージと客席を一つにまとめ、躍動感にあふれる演奏は、多くの人の心をつかみ、年間およそ80公演を行なっています。活動は市内にどまらず、北海道・全国にまで及び、2018年には北海道庁から派遣要請を受けホノルルでも演奏。もちろん北区のイベントや施設などのステージも踏んでいます。